社会福祉援助技術演習A	科目コード	CN3082

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
3	SR（演習）	2年以上	君島 昌志／芳賀 恭司／大橋 雅啓／齋藤 征人／須田　仁／竹田 征子／長谷川 千種ほか

※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前入学者は、履修することはできません。
※社会福祉士を目指す方々を対象とした講義となります。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について，実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習だけでは、今日の支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことは困難といえるでしょう。理論を実践に役立てるためには、専門的援助技術の学習とその体得が不可欠となります。

本演習では、社会福祉援助技術における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいくつかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、統合的、主体的に学習することを目的としています。

■到達目標

1）視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる。
2）社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から説明できる。
3）社会福祉の価値、倫理について説明できる。
4）言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。
5）相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる。
6）相談援助の基盤と専門性について説明できる。

■教科書（「演習 B・C」と共通）

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士相談援助演習（第 2 版）』中央法規出版、2015年（初版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年 4 月
（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。

■履修登録条件

この科目は「社会福祉援助技術総論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

また、実習を受講予定の方は「社会福祉援助技術実習指導 A」と同時に履修登録してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「応用的知識」「コミュニケーション力」「レポート作成力」「自己管理力」「協調性・主体性」を身につけてほしい。

■科目の評価基準・単位の認定方法

実践や説明40％＋スクーリング試験60％で評価します。

※スクーリング時間内およびスクーリング試験において、ソーシャルワーク実践に関する基本的な視点や態度をどの程度身につけることができたかについて確認をしていただきます。その確認内容が、スクーリングで学んだことと著しく相違していると思われる内容である場合には再履修となります（スクーリング試験は60点以上必須。自筆ノートのみ持込可。追試験等は一切ありません）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、スクーリングの申込みはあらためて必要ですが、既に合格済みのレポートは有効となります。

スクーリング

■演習Ａ　スクーリング申込手続

申込時の注意点

・『With』（３・７・９月号を予定）巻末の申込書（ハガキ or 用紙）を郵送すること。
・受講希望日程は、必ず２カ所を選択すること（５／31申込締切分のみ）。
・申込後の希望の変更は不可。

各申込日について

・**５／31締切**の申込➡６～７月に受講を希望する方が申込みください。
　※受講判定日（５／31or６／15or６／30）までに受講条件を達成すること（早めに達成した方が希望の会場で受講できる可能性は高くなります）。
・**９／15締切**の申込➡10月に新潟会場を希望する方がお申込みください。
　※９／15までに受講条件も達成すること。
・**11／30締切**の申込➡１月に仙台会場を希望する方がお申込みください。
　※11／30までに受講条件も達成すること。

■スクーリング受講クラスの決定方法

・申込締切日までに条件を満たした方は、希望日程のいずれかで受講できる予定です。
・それ以降の受講判定日に条件を満たした方は、希望会場に空きがあれば調整しますが、定員を超えている場合は無作為に振り分けます。
　※申込書に希望を２カ所記入されていない方や、提出物や納入金の遅延やスクーリングへの遅刻など、学習上のルールをお守りいただけなかった方の優先順位は下がります。
・教員を指定することはできません。
・**クラス分け決定後の受講日・受講地の変更は一切できません。**

■体験学習

「演習 A」スクーリング最終コマ（8 コマめ）の「体験学習・次年度実習ガイダンス」において説明しますが、受講後に体験学習（3 日間・福祉施設の現場体験）を実施していただきます。

※概要は『学習の手引き』3 章「社会福祉士国家試験受験資格」をご参照ください。

※実務経験により免除の可能性有り。

※実習免除者は不要。

■養成課程履修費について

「演習Ａ」を受講した方（スクーリング免除者を含む）は、受講後に届く納入依頼書にて期限までに納入してください。

※納入されない場合、「演習Ｂ」や「実習」の受講ができなくなりますので、ご注意ください。

■スクーリングで学んでほしいこと

・相談援助技術の基盤となる価値、倫理について体験的に理解する。
・その際必要となる専門職としての自己覚知を体験する。
・相談援助技術の基礎であるコミュニケーション能力を身につける。
・基本的な面接技術を身につける。
・実際の相談援助の過程を事例研究を通して理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	相談援助技術の枠組みに関する学習	ソーシャルワークの価値、知識、理論マクロレベル・メゾレベル・ミクロレベルの枠組み
2	自己覚知を促すための体験学習	自己理解、他者理解
3	相談援助技術に求められるコミュニケーション	利用者主体、自己決定の尊重、自立支援
4	社会福祉の価値、倫理に関する体験的学習	社会正義、人権保護、権利擁護
5	基本的なコミュニケーション技術の習得のための体験的学習	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション
6	相談援助過程の学習（相談援助事例の研究）①	児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレスの事例を紹介
7	相談援助過程の学習（相談援助事例の研究）②	児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレスの事例を紹介
8	相談援助の基盤と専門性に関する学習 質疑応答　スクーリング試験	社会福祉士に求められる相談援助に関する知識・技術
9	体験学習・次年度実習ガイダンス**（実習免除者は受講不要）**	

■講義の進め方

「講義内容」を中心に、各担当教員が演習をおこないます。グループディスカッションや役割取得訓練、ロールプレイングなどのグループワークをあわせておこないます。

スクーリングの最後におこなう試験は、論述式です。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

『新・社会福祉士養成講座７・８　相談援助の理論と方法』などのテキストを確認しておくこと。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	序章 相談援助演習の目的と意義、内容 第１節　相談援助演習とは	「相談援助演習」を学ぶにあたり、「相談援助」とは何か、「ソーシャルワーク」とは何かを考える。また、本演習の目的とその意義を考え、理解する。 キーワード：相談援助、ソーシャルワーク、ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークのグローバル定義	相談援助演習の「目的と意義」とは何かということを視点に学習をしましょう。「ソーシャルワークのグローバル定義」は重要です。熟知しましょう。
2	第２節　相談援助演習を通して学ぶこと	ソーシャルワークの目的、使命、目標について理解する。また、価値と倫理、基本的視点について理解する。 キーワード：基本的ニーズ、社会機能、人権尊重、社会正義、説明責任、価値、倫理、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、エコロジカルモデル、システム理論、実践レベル（ミクロ・メゾ・マクロ）、共通スキル	ソーシャルワークの目的・使命・目標を理解することが大切です。その上で、価値と倫理、基本的視点、理論・モデル、実践のレベル、共通スキル等をひとつひとつ確実に理解しましょう。
3	第１章 相談援助演習の基本 第１節　人を理解する	「人を理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「人を理解する」ということは何かを考える。 キーワード：他者理解、自己理解	「人を理解する」ということは、「他者理解」、「自己理解」を意味することになるということを視点に学習をしましょう。
4	相談援助における基本技術（２）人を理解するー「他者理解」と「自己理解」クライエントを理解する	「クライエントを理解する」ということはどのようなことを意味しているのか。専門家であるソーシャルワーカーが意味する「クライエントを理解する」ということは何かを考える。 キーワード：社会診断、社会的困難、ソーシャル・ケース・ワークの定義	「クライエント」という呼び名の意味するところは何か。リッチモンドの社会診断の定義を参考に学習しましょう。また、ソーシャル・ケース・ワークの定義について確認しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	第２節　環境の理解	岡村理論の枠組みについて理解する。また、ソーシャルワークの実践レベル・実践方法について理解する。 キーワード：岡村理論の枠組み、人・環境の実践、二重の焦点づけ、エコロジカル・アプローチ、ソーシャルワークの実践レベル	岡村理論の枠組みについて理解しましょう。また、また、ソーシャルワークの実践レベル・実践方法について具体的に確認しましょう。
6	第３節　価値と倫理	ソーシャルワークにおける、価値、倫理について理解する。 キーワード：倫理、専門職倫理、社会福祉士の行動規範、価値、専門価値、価値のジレンマ、職業倫理の７原則、倫理綱領	専門職のもつ例外的特殊権限、専門職倫理、専門職の行動規範と責任、専門価値、価値のジレンマについてひとつひとつ確認しましょう。社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範等を活用しながら学習しましょう。
7	第４節　ソーシャルワークにおける関係性理解	ソーシャルワークにおける対人援助関係およびソーシャルワーカーとしての適切な関係性について理解する。 キーワード：Ｆ．Ｐバイステック、スーパービジョン、ソーシャルワーカーの倫理綱領	ビネットの課題を検討してみましょう。検討後、解説を確認してみましょう。社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範等を活用しながら学習しましょう。
8	第５節　ソーシャルワークの展開過程	ソーシャルワークならびにグループワークの展開過程について理解する。 キーワード：インテーク、アセスメント、プランニング、計画実行、モニタリング、終結、評価、準備期、開始期、作業期、終結期	ソーシャルワークおよびグループワークの展開過程の各段階について具体的に確認しましょう。ビネットを通し課題検討をしてみましょう。検討後、解説を確認してみましょう。
9	第２章 多様なコミュニケーション技術 第１節　相談援助における面接の目的と特性	相談援助における面接の目的と特性について理解する。 キーワード：言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション	相談援助における面接の目的と特性について、「会話と援助的面接との相違」について理解しましょう。
10	第２節　面接の基盤	面接の基盤（インテーク面接）について理解する。 キーワード：傾聴、共感的理解、支持	相談援助における、傾聴、共感的理解、支持について理解しましょう。
11	第３節　面接における基本的応答技法	面接における基本的応答技法について理解する。 キーワード：単純な反射、感情の反射、アンビバレントな感情の反射、言い換え、要約、情緒的な支持の提示	「面接における基本的応答技法」について、教科書を参照し具体的技法を理解しましょう。事例を通して、キーワードを理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	第４節　議論を促進する際のコミュニケーション	議論を促進する際のコミュニケーション方法について理解する。 キーワード：グループディスカッション、協働、連携	グループディスカッションとは何かを理解しましょう。その上で、会議におけるコミュニケーション、地域住民を対象とするコミュニケーション方法について理解しましょう。ビネットの課題検討をしてみましょう（個人での検討で構いません）。
13	第５節　アイディアを出して情報を整理する際のコミュニケーション	福祉課題に対して多様なアイディアを考える重要性および情報を整理する具体的方法を理解する。 キーワード：ブレインストーミング	ブレインストーミングとは何か、またその具体的方法を理解しましょう。ビネットの課題検討をしてみましょう（個人での検討で構いません）。
14	第６節　プレゼンテーションを行う際のコミュニケーション	プレゼンテーションを行う際のコミュニケーションについて理解する。 キーワード：プレゼンテーション、ケースカンファレンス、事例検討会、研究会、学会	プレゼンテーションを行う際のコミュニケーションの観点からの留意点について考えてみましょう。キーワードについて、その内容を確認しましょう。
15	相談援助の実際（危機的状態にある相談援助の実際を理解する）	キーワードを中心に、教科書のビネットを参照し、相談援助の実際の概況を理解する。 キーワード：児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレス	教科書のビネットを参照し、キーワードを中心に現在の日本の相談援助の概況を把握してみましょう。

■レポート課題

※１課題につき１冊のレポート提出台紙を使用すること。

※レポートの提出方法については後述の「■レポートの提出方法・期限」を参照のこと。

1 単位め	**スクーリング事前課題**（演習Ａスクーリング申込締切日までに提出） 社会福祉実践においては、援助者自身の「気づき・自己覚知」が大切です。なぜ、援助者には「気づき」が大切なのでしょうか、あなた自身の体験を踏まえながら述べてください。 ※担当教員名は未記入で提出してください。
2 単位め	**（スクーリング受講前までの提出を推奨。受講後の提出でも可）** 「バイスティックの原則」のうち、３つの原則を選び、実践やスクーリングでの体験を通して、援助のあり方を論じてください。 ※担当教員名はスクーリング受講後提出のみスクーリング担当教員名を記入。
3 単位め	**（スクーリング受講者）** 「演習Ａ」のスクーリングを受講しての自身の振り返りを行いながら、社会福祉士として求められるものをまとめなさい。 ※担当教員名はスクーリング担当教員名を書いてください。 **（スクーリング免除者：実習免除者とは異なります）** 社会福祉士に必要とされる価値観にはどのようなものがあるか、まとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

社会福祉実践において他者を援助するに当たっては、適切な他者理解が必要です。他者理解を得るためには、適切な自己理解が援助者としてはとても大切になります。利用者と向き合った時に自分自身の考え方や、性格、価値観などについての「気づき・自己覚知」が出てきます。過去の出来事が自分の性格や、癖、行動傾向などによって現在の自分が作り上げられています。ここでの「気づき・自己覚知」についてまとめてみることによって、自己理解に役立てることができます。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

また、社会福祉実践において援助者は、コミュニケーションを通して効果的な援助を展開していきます。コミュニケーションについては、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの理解が必要です。ここでは、言語コミュニケーションにおける自分自身についての「気づき・自己覚知」や非言語コミュニケーション（視線、姿勢、表情、音声、距離、位置）などについての「気づき・自己覚知」なども大切です。これらを通しての自分自身のコミュニケーションの特性についての「気づき・自己覚知」について感じたことをまとめてみることも大切です。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

あるいはこのレポート課題について、あらためて自分自身の日常生活における行動や考え方、癖などについての新たな「気づき・自己覚知」や、これまでの生活を振り返って感じた「気づき・自己覚知」、社会福祉専門職を目指すものとしての「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

2単位めアドバイス

利用者理解を深めるためには、理論的な面をしっかり理解するとともに、仕事やボランティアなどの実践活動、また、スクーリングでのロールプレイや日常生活における人間関係のなかで、対人援助の基本を考察しながら自らの資質を高めていく努力が求められます。

利用者主体とはなにか、最善の利益とはなにか。援助のあり方について実践的な面（職務・体験）と理論的な面（原理・原則）を結びつけながら論じてみてください。

また、バイステックの原則は7つありますが、選択した3つを必ず明記してください。

3単位めアドバイス

（スクーリング受講者）

利用者の尊厳を守り、利用者主体の原則を実現するための社会福祉士の役割について考えてください。一般論としてだけではなく、「演習Ａ」のスクーリングを受講しての自身の体験をふりかえりも含めて、まとめてください。

（スクーリング免除者）

現在、社会福祉の制度やまた、それらをとりまく環境は大きく変わり、社会福祉援助技術にも新たな視点が求められています。それらの技術の基盤となる価値観や倫理観にはどのようなものがあるか、一般論ではなく演習や実践の体験とを関連づけながらまとめてください。

■レポートの提出方法・期限

全単位共通

・1課題につき1冊のレポート提出台紙を使用すること。

・字数は2,000字程度（最長4,000字程度）。

1単位めについて

・提出締切はスクーリング受講判定日（5／31・6／15・6／30・9／15・11／30）必着。

・レポート提出台紙の担当教員名は未記入で提出すること。

・返却はスクーリング受講申込締切日から約1カ月後になります。

2・3単位めについて

・提出締切は、「演習Ｂ」を同年9～11月に受講希望する人は9／15（10／15でも可だが、「演習Ｂ」の受講は10月下旬以降で定員に余裕のある会場のみとなります）、翌年5～6月に受講希望する人は3／15 or 4／15。ただし2単位めについては、演習内容をより理解するために、スクーリング受講前までの提出をおすすめいたします。

・レポート提出台紙の担当教員名はスクーリング時の教員名を書くこと（スクーリング受講前に提出の2単位め、スクーリング免除者の3単位めは未記入）。

■演習Ａ　スクーリング受講条件

受講判定日（6～7月開講分：5／31・6／15・6／30、10月開講分：9／15、1月開講分：11／30）までに

①「社会福祉援助技術総論」の1・2単位めレポートの提出

②「演習Ａ」の1単位めレポートの提出

③（入学後1年以上経過した方は）認定単位を除き20単位以上の修得。

※5／31までに申し込んで、受講条件の達成が6／15や6／30になった場合、受講可能なのは7月中旬以降で定員に余裕のある会場となります。

※7月後半の会場で定員に余裕がある場合、6／30締切で申込を受け付けることがあります。

※「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「児童・家庭福祉論」「福祉社会学」「福祉法学」「福祉心理学」などのうち数科目の学習を進めるなど、十分事前準備をしてから受講してください。